

## 会 議 録 （要旨）

会 議 名	平成 21 年度行政評価委員会第 1 回行政改革推進分科会
開 催 日 時	平成 21 年 4 月 27 日（月） 午後 2 時 30 分から 4 時 10 分
開 催 場 所	町民会館 第 1 会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：伊藤委員、栗原委員、湊委員、金井委員、木村委員、内海委員 欠席者：なし 事務局：杉浦企画総務部長、田辺企画財政課長、大井企画係長、企画係福島
報 告 事 項	なし
議 題	1 正副分科会長の互選 2 平成 20 年度瑞穂町第 3 次行政改革大綱実施細目 の進捗状況調査結果について 3 行政改革に関する職員アンケート結果について 4 その他
傍 聴 者	2 名
結 論 ( 決定した方針、残された問題点、保留事項を記載する。)	<p>議題 1：正副委員長の互選</p> <p>行政評価委員会条例施行規則第 4 条第 2 項の規定により、分科会長に木村委員、副分科会長に湊委員を推薦により選任した。</p> <p>議題 2：平成 20 年度瑞穂町第 3 次行政改革大綱実施細目 の進捗状況調査結果について</p> <p>各委員から主に、以下の意見が出された。</p> <p><b>全体的なことについて</b></p> <p>実績によってどのような効果があったのか、住民からの評価はどうか、あるいは、その後どのように対処する（した）のかがもっと明確に示されるべきである。</p> <p>取り組み実績がなかったものも見受けられるが、次の年度の目標を示すべきである。</p> <p>イベント等でのアンケート調査やパネルディスカッションを実施したのであれば、参加者や回数、参加者の評価などを示すべきである。また、その意見等をどう反映させたのか、今後反映させていくのかも重要なことである。</p> <p><b>個別の取り組みについて</b></p> <p>証明書等の交付手数料は、市町村によりばらばらだと思うが、そのような比較研究を行うべきである。</p> <p>今後さらに需要が多くなる健康指導、介護関係の資格取得への支援も制度として必要なのではないか。</p> <p>議題 3：行政改革に関する職員アンケート結果について</p> <p>各委員から主に、以下の意見が出された。</p> <p>職層や組織別に結果を出すとそれぞれの認識の状況が分かるのではないかと。</p> <p>職員の意識改革を行う点からも、資料はもっと簡素なものがよい。</p> <p>目的から効果までを明確にし、最終的に何が求められているかを捉えて職員がアンケートの結果を見るとよい。</p>

<p><b>審 議 経 過</b>  (主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめる。)</p>	<p>日程1 開会  分科会の正副会長が決定するまでの間、田辺企画財政課長により進行が進められ、委員の退任及び交代の報告、また、内海委員から委員就任の挨拶が行われた。  続いて、事務局から会議の成立について説明、また、資料の確認が行われた。</p> <p>日程2 議題  議題(1)「正副分科会長の互選」  伊藤委員の推薦により木村委員が分科会長に、木村委員の推薦により湊委員が副分科会長にそれぞれ選出され、一同は了承し、木村、湊両委員も承諾した。その後、木村分科会長、湊副分科会長から就任の挨拶が行われた。</p> <p>(以下、木村分科会長により議事が進められた。)</p> <p>議題(2)「平成20年度瑞穂町第3次行政改革大綱実施細目 の進捗状況調査結果について」  事務局から説明を行った後、各委員からの意見及び質疑を行った。</p> <p>各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答  (伊藤委員) 本来なら取り組んだ実績からどのような効果があったのか分かるようにしたほうがよい。実績だけではなく、どのような効果があったのか、具体的なものとしてあげた方がよい。資料中に「いくつかの課」という記載があるが、適切ではない。数値化できるのであれば具体的にした方がよい。公表を前提とするのであれば、限られた枠の中でも丁寧な言葉で、具体的かつ分かりやすくした方がよい。</p> <p>(事務局) 企画財政課で調査し、各課で記載してもらったシートがあるが、お配りした資料では情報が少なかった。シートを工夫し、詳細について委員にご覧いただくこともできるので改めたい。</p> <p>(栗原委員) 手数料が各市町村で違うが、例えば住民票を取るときの他自治体の手数料がわかるようであれば、比較することもできるのではないかと。</p> <p>(事務局) 資料を作成することもでき、また、各市町村で、条例や規則を制定しているので、ホームページから検索し、情報を取得してもよいのではないかと。</p> <p>(金井委員) 出前講座で「裁判員制度」と「自宅でできる健康体操」を実施、また、資格取得支援制度について現在も研究中とあるが、介護予防に関心があり、茨城県では介護予防の指導士を県が育成していることを知った。1級指導士が3級の指導士を育成しているようである。県だけの資格のようであるが、健康指導士や介護指導士といった資格取得のための講座を時間があれば受けてみたい。</p> <p>(事務局) 出前講座は町の職員が行い、資格取得支援制度は職員が資格を取得する際の支援である。共通しているのは、福祉や介護分野の既存の事業を推進することであり、いただいたご意見や情報を担当に伝え、より効果的に施策を運営していく。</p>
--	---

(伊藤委員) パネルディスカッションを実施したのであれば、少なくとも参加者や回数、また、参加した方からどのような評価があったのかを記載した方がよい。文章あるいは数値化した方がよいのかは難しいが、単に実績だけでは評価につながらないので、目的、実績、効果がわかるようにした方がよい。

記載内容に「調査・研究」とあるが漠然としている。例えば、今年度は他市町村の状況を研究し、来年度はそれにもとづいて問題点を抽出する。そして、いつ導入するのも踏まえて具体的に表すとよい。

(事務局) 各課から詳細なシートを出してもらっているが、お配りした資料はあまりにも雑駁になってしまった。雑駁でも読む方がわかるよう改良し、個表についても今後ご覧いただけるようにしたい。

(湊委員) 「子ども安全ボランティアの育成・活用」の部分で、取り組み実績はなかったとあるが、実績はなくても計画を立てているのであれば、取り組み実績のところの評価だけではなく、今後どうしていくのかなど実施に向けての取り組みも記載した方がよい。

(事務局) 平成 19 年度の実績では、防犯カメラを設置し、また、通学時のパトロールを実施したが、継続しているようである。町では総合危機管理マニュアルを策定し、各課では、例えば情報の漏洩、身体への危害あるいはインフルエンザへの対応についてなど、個別のマニュアルを作成しているが、それについて学校教育課では作成できなかったという報告は受けている。

(伊藤委員) 項目自体がボランティアの育成であるので、内容は適切にする必要がある。ボランティアの育成について学校教育課がどの程度考えていたのかもあるが、できなかった理由も含めて評価しなければならない。

(木村分科会長) 資料については改良を加え、取り組んだものから実績がわかるようにすること。

### 議題(3) 「行政改革に関する職員アンケート結果について」

事務局から説明を行った後、各委員からの意見及び質疑を行った。

各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(伊藤委員) まとめた冊子は職員に配っているのか。全体的な傾向を見るには、アンケート票自体にまとめて記載した方がわかりやすい。また、職層や組織別に結果を出せば組織内部で認識状況などが分かり、疑問点の分析や改善ができると思う。

(事務局) さまざまな切り口から結果を出して、課や職層別に作成することも可能である。

(内海委員) 資料の枚数が多いので、多くても 20 枚くらいがよい。資料としてはよいが、職員の意識改革の観点から、もっとシンプルにした方がよい。

(事務局) いかに短く分かりやすくできるか改良していきたい。

(伊藤委員) 目標から効果までの意味合いを組織として捉えれば、もっとわかりやすいもので済むかと思う。職員が活用し、工夫してもらうことが重要である。

(事務局) これから職員に意識啓発していく。職員に対して行政改革に関するアンケ

ートを実施したのは初めてであり、職層間では行政改革に関する意識が違うことも分かったので、今後あらためて職員に報告し、改善をしていきたい。

議題(4)「その他」

各委員からの意見等はなかった。

日程3 事務局から

会議資料を補助金等審査分科会の委員にも届ける旨、また、行政評価に関して委員に情報提供を行っていくとともに、評価内容等の確認について報告があった。

閉会 午後4時10分